

2017年3月期 通期決算 要旨
連結損益計算書 (要約)

(億円)	2016年3月期		2017年3月期			2018年3月期	
	第2四半期 累計実績	通期実績	第2四半期 累計実績	通期実績	前期比	通期計画	前期比
売上高	1,543	3,479	1,695	3,669	+5%	3,800	+4%
営業利益	57	176	153	295	+68%	200	-32%
経常利益	58	164	154	285	+74%	160	-44%
税引前当期純利益	40	120	271	337	+181%	160	-53%
親会社株主に帰属する当期純利益	9	53	242	276	+421%	110	-60%
1株当たり配当(円)	20	40	20	40	-	40	-
1株当たり当期純利益(円)	4.11	22.90	103.47	117.79	-	46.93	-
1株当たり純資産(円)	1,310.36	1,257.43	1,292.06	1,313.06	-	-	-

<2017年3月期実績>

- 売上高：3,669億円、営業利益：295億円、親会社株主に帰属する当期純利益：276億円
- 前期比で大幅な増収、増益

<2018年3月期計画>

- 売上高：3,800億円、営業利益：200億円、親会社株主に帰属する当期純利益：110億円
- 前期比で増収、減益を計画

各種費用等の実績

(億円)	2016年3月期		2017年3月期			2018年3月期	
	第2四半期 累計実績	通期実績	第2四半期 累計実績	通期実績	前期比	通期計画	前期比
研究開発費・コンテンツ制作費	247	580	317	671	+16%	710	+6%
設備投資額	125	280	138	270	-4%	244	-10%
減価償却費	82	166	76	163	-2%	166	+2%
広告宣伝費	93	179	76	148	-17%	205	+39%

連結貸借対照表 (要約)

(億円)	【資産の部】			【負債・純資産の部】			
	科目	2016年3月期末	2017年3月期末	増減	科目	2016年3月期末	2017年3月期末
流動資産	3,022	3,241	+219	流動負債	1,059	1,125	+66
固定資産	2,306	1,974	-332	固定負債	1,270	975	-295
				負債合計	2,330	2,101	-229
				純資産合計	2,999	3,114	+115
資産合計	5,329	5,215	-114	負債及び純資産合計	5,329	5,215	-114
				科目	2016年3月期末	2017年3月期末	増減
				自己資本比率	55.3%	59.0%	+3.7pt
				流動比率	285.2%	287.9%	+2.7pt

- 総資産：114億円減少の5,215億円
- 流動資産：有価証券やたな卸資産の増加により、219億円増加
- 固定資産：有形固定資産及び投資有価証券の減少により、332億円減少
- 負債：社債償還及び借入の返済により、229億円減少
- 自己資本比率：3.7ポイント上昇の59.0%
- 流動比率：2.7ポイント上昇の287.9% (2016年3月期末 流動比率：285.2%)

遊技機事業

(億円)	2016年3月期		2017年3月期			2018年3月期	
	第2四半期 累計実績	通期実績	第2四半期 累計実績	通期実績	前期比	通期計画	前期比
売上高	609	1,410	649	1,482	+5%	1,500	+1%
内訳							
パチスロ	310	611	318	862	+41%	631	-27%
パチンコ	231	668	264	483	-28%	716	+48%
その他/消去等	68	131	67	137	-	153	-
営業利益	84	209	106	263	+26%	200	-24%
営業利益率	13.8%	14.8%	16.3%	17.7%	+2.9pt	13.3%	-4.4pt
パチスロ販売台数(台)	70,260	142,337	81,895	215,736	+52%	158,000	-27%
パチンコ販売台数(台)	79,604	199,014	75,542	138,321	-30%	203,000	+47%

<2017年3月期実績>
【全体】

- 主にパチスロにおいて主カタイトルを含む実績あるシリーズ機の販売を行ったことにより前期比で増収、増益

【パチスロ】

- 『パチスロ北斗の拳 修羅の国篇』や『パチスロ コードギアス 反逆のルルーシュ R2』等の販売を実施
- 販売タイトル数の増加により前期比で販売台数が増加

【パチンコ】

- 政策的に大型タイトルの販売を翌期に変更したため、前期比で販売台数が減少

<2018年3月期計画>
【全体】

- 上期を中心に複数タイトルの販売を実施
- 販売構成や市場環境に鑑みて保守的な利益水準を想定

【パチスロ】

- 2017年10月1日以降の新台設置から新たな自主規制が適用されることに伴い販売台数の減少を計画

【パチンコ】

- 主カタイトル『ぱちんこCR北斗の拳7 転生』を含む複数タイトルの投入により、販売台数の増加を計画

エンタテインメントコンテンツ事業

(億円)	2016年3月期		2017年3月期			2018年3月期	
	第2四半期 累計実績	通期実績	第2四半期 累計実績	通期実績	前期比	通期計画	前期比
売上高	859	1,905	978	2,057	+8%	2,200	+7%
内訳							
デジタルゲーム	215	456	230	473	+4%	590	+25%
パッケージゲーム	146	423	230	471	+11%	515	+9%
AM機器	206	419	225	494	+18%	435	-12%
AM施設	189	380	190	372	-2%	380	+2%
映像・玩具	95	212	94	227	+7%	245	+8%
その他/消去等	8	15	9	20	-	35	-
営業利益	17	42	91	111	+164%	100	-10%
内訳							
デジタルゲーム	9	-4	38	49	-	73	+49%
パッケージゲーム	-9	24	27	26	+8%	32	+23%
AM機器	2	-1	8	17	-	-4	-
AM施設	13	18	20	22	+22%	17	-23%
映像・玩具	0	6	1	12	+100%	15	+25%
その他/消去等	2	-1	-3	-15	-	-33	-
営業利益率	2.0%	2.2%	9.3%	5.4%	+3.2pt	4.5%	-0.9pt
パッケージ販売本数(万本)	328	922	465	1,028	+11%	1,160	+13%
国内AM施設店舗数	198	194	189	191	-	190	-
国内AM施設既存店売上高前年比	102.2%	103.1%	110.8%	108.5%	+5.4pt	101.3%	-7.2pt

<2017年3月期実績>

【全体】

- 各事業分野が好調に推移し、前期比で増収、増益
- デジタルゲーム分野の既存主カタイトルが堅調に推移
- パッケージゲームやアミューズメント機器分野において、大型タイトルの販売が集中したことから好調に推移

【デジタルゲーム】

- 『ファンタースターオンライン2』が好調に推移
- 『オルタンシア・サーガ-蒼の騎士団-』、『ぷよぷよ!!クエスト』等の既存主カタイトルが堅調に推移

【パッケージゲーム】

- 『Total War』シリーズの新作『Total War: WARHAMMER』の販売が好調に推移
- 『ペルソナ』シリーズの新作『ペルソナ5』の販売が好調に推移
- 大型タイトルの販売が集中したことから、販売本数は前期を上回る**1,028万本**

【AM機器】

- 『艦これアーケード』等のレバニューシェアモデルによる継続的な収入を計上
- 人気トレーディングカードゲームの新作『三国志大戦』の販売が堅調に推移
- 『UFOキャッチャー9』の販売が堅調に推移
- 新作カジノ機器『エキサイティング・バカラ』がマカオ市場にて稼働開始

【AM施設】

- 施設稼働は既存店売上高昨年度対比**108.5%**と好調に推移
- 『艦これアーケード』を中心としたビデオゲーム稼働が堅調に推移
- 改正風適法施行により、施設稼働が向上

【映像・玩具】

- 過去最高の興行収入を突破した、劇場版『名探偵コナン 純黒の悪夢(ナイトメア)』の配給収入やTVアニメ等の制作収入を計上
- 『アンパンマン』シリーズや『ぷに♡ジェル』シリーズ等の定番・主力製品等を中心に販売

エンタテインメントコンテンツ事業

<2018年3月期計画>

【全体】

- 前期比で増収、減益
- デジタルゲーム分野で、新作タイトルの投入数が増加することや、パッケージゲーム分野で、PCゲームの販売タイトルの拡充をはかることから増収を計画
- アミューズメント機器分野において、投入タイトル数が減少

【デジタルゲーム】

- 国内の既存主力タイトルを中心にイベントやアップデート等を実施し、継続的な収益貢献を計画
- 前期比でスマートデバイス向け新作タイトルの投入数が増加

【パッケージゲーム】

- 『ペルソナ5』の海外展開を実施
(2017年4月に全世界での累計出荷数が150万本を突破)
- PCゲームの販売タイトル拡充をはかることから、販売本数は**1,160万本**を計画
『Warhammer 40,000: Dawn of War III』、『Endless Space 2』、
『Total War: WARHAMMER 2』等

【AM機器】

- 前期に比べ、新作タイトルの投入数が減少(3タイトル⇒2タイトル)
- 『マルチデバイス×ワンサービス』の取り組みとして、新作『SOUL REVERSE』の投入を予定
- 『艦これアーケード』を中心にレベニューシェアモデルによる収益貢献を計画
- カジノ機器開発や販売に向けた先行費用等が発生

【AM施設】

- 既存のゲームセンター業態における、電子マネーの導入を計画
- 引き続きプライズを中心とした施設オペレーションの強化に取り組む
- コラボカフェ等の新業態店舗に向けた取り組みを強化

【映像・玩具】

- 劇場版『名探偵コナン から紅の恋歌 (ラブレター) 』や『それいけ! アンパンマン ブルブルの宝探し大冒険! 』等の映画配給収入を計画
- 『アンパンマン』シリーズや『ディズニー』シリーズ等の定番・主力製品を中心に展開

リゾート事業

(億円)	2016年3月期		2017年3月期			2018年3月期	
	第2四半期 累計実績	通期実績	第2四半期 累計実績	通期実績	前期比	通期計画	前期比
売上高	74	163	67	130	-20%	100	-23%
営業利益	-12	-18	-13	-22	-	-30	-

<フェニックス・リゾート>

売上高	42	90	35	84	-7%	100	+19%
営業利益	-2	-1	-7	-8	-	0	-
施設利用者人数 (万人)	29.9	59.7	25.9	56.1	-6%	65.1	+16%
宿泊3施設	14.5	29.7	13.4	29.3	-1%	33.2	+13%
ゴルフ2施設	4.2	9.2	3.9	8.7	-5%	10.0	+15%
その他施設	11.1	20.7	8.5	18.1	-13%	21.8	+20%

<パラダイスセガサミー>

売上高 (10億KRW)	51	95	46	95	-	-	-
営業利益 (10億KRW)	8	10	3	-0	-	-	-
利用者数 (千人)	24	48	24	57	+19%	-	-

※「パラダイスセガサミー」は当社持分法適用関連会社

※「パラダイスセガサミー」の数値は3ヶ月遅れで計上

<2017年3月期実績>

- 『フェニックス・シーガイア・リゾート』においてホテルのリニューアルオープンを実施したものの、平成28年熊本地震の影響を受け低調に推移
- 屋内型テーマパーク(ジョイポリス)を運営する子会社の一部株式を売却 (2017年1月1日)
- 韓国・仁川、既存のカジノ施設『パラダイスカジノ仁川』の運営に取り組む

<2018年3月期計画>

- 屋内型テーマパーク(ジョイポリス)売却の影響で減収
- 『フェニックス・シーガイア・リゾート』において、ガーデンエリアのリニューアルを実施
- 韓国初の本格的IR (統合型リゾート) となる『パラダイスシティ』オープン (2017年4月20日)
- IR (統合型リゾート) 事業における先行投資費用等を計画

※本資料における業績見通し等の内容は、現時点で入手可能な情報に基づき、経営者が判断したものであります。従って、これらの内容はリスクや不確実性を含んでおり、将来における実際の業績は、様々な影響によって大きく異なる結果となりうることを予めご承知おき下さい。